

幼珠連通信

全国幼児珠算教育連盟発行

発行人 大西信二

早教育と天才

会長 井上 文克

去る4月19日 2009年度全日本ユース珠算選手権大会が本紙別頁の報告の通り、一点の非の打ち所もなく挙行されました。大会の主催者の一人が こんな表現をすることは全く可笑しいことですが、他に言い方がないのでお許し下さい。ご参加された方はどなたも同じ感を抱かれたことと確信いたしております。

教育、特に幼・少年期の教育で、競技として実施されるものとして、珠算の腕比べが今のところ、又将来にわたって最高のものであることを、今回の大会を通じて確信いたしました。特に、競技の判定についての設備(0.001秒の計時器)は最高でありました。

今回ご参加いただいた選手の皆さんは、一般教育界では、天才あるいは秀才と呼ばれる方々でしょう。どのようなご縁で こんな素晴らしい能力を身につけられたかを、心から知りたいと思います。

私は 子どもの頃より天才と呼ばれる方々に、非常に興味を持っていました。この事が昭和52年11月28日、大阪梅田の旭書店で、玉川大学出版部発行の「早教育と天才」木村久一先生著を入手出来てある程度理解が出来た時の喜びを、今はっきりと思い出しています。入手の2日前の朝、NHK102スタジオで玉川大学創立者小原國芳先生のお話を聞き、非常に感銘を受けたところでしたので、本書との不思議な巡り会いは脳裏に焼き付いています。当時すでに脳科学について学ぶ機会に恵まれていたことと、以前 小原國芳先生にお目にかかったことがあったことが重なり、この書に出会ってからより一層天才教育には深く関心をよせてまいりました。

昨年度の全日本ユース選手権大会以来、夢を再び天才教育に向けております。このような素晴らしい事実を目の前にして、幼年珠算教育のより一層の振興に精進することを誓っております。

なお、「早教育と天才」は、玉川大学出版部(TEL042-739-8935)で、すぐ入手できます。(初版発行：1977年7月、現在は2008年2月発行の第20版定価1500円)

珠 吟

しゅげん - 66 -

善い言葉でもって日々の授業を！

私達は、普通 言葉を口にしない日はありません。朝、家族や教室の隣接の人と挨拶を交わし会話をする。教室では生徒や保護者との会話を行ったり、電話で話をします。また、協会員同士、会議等での言葉を交えます。

時には、自分一人になった時も、頭の中で言葉を使い、考えていることありましょう。

言葉は私達の生活では、欠かせないものであり、まして教室での授業では言葉が最も大切な役割を果たしています。その日、一日、同じ言葉、語句によって支配され、たった一語で自分を奔走ほんそうさせることもあります。何かのことが気になり、何かの言葉にしばられ、終日あるいは、しばらくその言葉が頭から離れないこともありましょう。

時に 授業終了後、各生徒の指導について反省し、ある生徒へのひと言が気になり、再考する経験をお持ちの方もおられることでしょう。また、私達の協会・連合での会合時に発言した言葉が気になって、後で考えさせられることもあります。

仏教学者で元東京大学名誉教授・中村 元 博士はじめ(1912～1999)は次の言葉を残しています。「善い言葉を口に出せ。悪い言葉を口に出すな。善い言葉は口に出した方がよい。悪い言葉を口に出すと悩みをもたらす」と。まったく、その通りと思います。

その生徒にとって善いと思って発言した言葉が、その生徒に傷つけてしまうこともあります。また、注意すべき生徒と間違えて、関係のない別の生徒へ厳しく叱責する言葉となり、後で、反省させられることもあります。その時の感情が走ってしまい、ついつい、自制ができない経験をもつ方もありましょう。後で、感情を自制できない自分の未熟さを感じさせられます。私達は生徒への指導上の言葉に、十分に留意して行なわなければなりません。

自分を卑下した言葉、人をやみくもに責め立てる言葉、どうにもならないことを執拗に悔やむ言葉、怒りや憎しみにさいな苛まれている言葉、こういう言葉は自分をさらに追い込み、悩みを強く大きくしてしまいます。勿論、周囲にも毒をまき散らかしているのです。

2009年度 全日本コース珠算選手権大会

表記大会は昨年度に続いて、全国幼児珠算教育連盟が主催。さらに、京都珠算振興会・立命館小学校が共催を得て、4月19日(日)正午、京都・立命館小学校にて開催しました。参加選手は東京都・千葉県・埼玉県・山梨県・長野県・静岡県・富山県・石川県・三重県・愛知県・岐阜県・大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・和歌山県・奈良県・徳島県・岡山県・大分県・沖縄県の21都道府県からから**アンダー10**(満10才まで)109名・**アンダー12**(満12才まで)95名・**アンダー15**(満15才まで)51名の選手255名が参加しました。午前8時に、準備委員60数名により会場設営。午前9時30分から進行の打合わせ会を行い、午前11時、選手受付開始。選手は会場へ入場し、練習に励み、会場にすでに大会ムードが漂う。会場の体育館は競技会場と階段式観覧席(可動式)で二分し、観覧席も開始前には ほぼ満員である。大会開始直前、会場中央のスクリーンには、パワーポイントによる参加選手と学校名が放映される。

正午、「只今より、2009年度全日本コース選手権大会を開催します」の言葉で開会宣言。井上文克幼珠連会長の開会挨拶、立命館小学校教頭による共催者の挨拶に続いて、日本珠算連盟森友 建理事長の祝辞をいただき、開会となる。

金本和祐大会委員長による演技委員の紹介により総合競技が開始。かけ算30題5分。演技委員の「用意！始め」の一声で、会場は緊張感がみなぎり、珠の音が舞い上がり、珠と鉛筆の音が春風となり、温かく会場を包む。会場スクリーンには選手達が競技中の問題が大写しされ、観戦者に競技内容を説明。「やめて！」の声で 珠と鉛筆の音が止まる。流石に全国各地から一流の選手の集いであり、5桁×5桁のかけ算問題を暗算で計算する選手も見られる。競技の合間、初めて観戦する方に大会を理解していただくために、選手の計算の模様をアナウンスし、どの観戦者に興味を持って観戦していただく。乗算・除算・見取算・乗暗算・除暗算・見取暗算の6種目の総合競技の後、種目別競技は かけ算6題を全員で予選を行ない、計算開始と同時に会場スクリーンにその問題が掲示、観戦者も問題を見ながら選手の動きを観戦しておられる。6種目を予選から準々決勝・準決勝で10名の決勝進出者を選出する。

会場スクリーンに、種目毎に、決勝進出者の名前・学校名がパワーポイントで表示され、種目別決勝戦の開始。檀上に1～10の席(計算時計器の設置)に着席し競技開始。計算完了と同時に各席の時計器ボタンを押すと計算時間を記録。得点と計算速度により、1位～3位までの順位が決定する方式で6種目が行なわれる。各種目、0.1秒、いや0.01秒の戦いが続き、観覧席から あまりの速さで驚嘆の声が上がり、入賞者決定には心から祝福の拍手が湧く。

次に、マスコミに受けるフラッシュ暗算競技が行なわれ、各テレビ局のカメラが動く中で競技が行なわれ、観客席は、そのスピード感到驚きの声もれる。

午後4時、檀上で表彰式。各部門10位～1位を役員・来賓から表彰。優勝者は特大トロフィーに感激。表彰後、立命館小学校井本教頭から珠算大会の講評があり、定刻の午後4時20分に金本委員長による閉会の言葉で、密度の濃い 盛り上がった大会が終了となりました。なお、開会前から終了まで各局のテレビカメラが放列して収録され、大会が一段と盛り上がっていただきました。朝日テレビは当日のニュースとして全国へ報道され、関西テレビは5月15日(金)午後6時の番組で、大会の内容を報道されることになった。

各部門の優勝者には後援の日本珠算連盟・(社)全国珠算教育連盟・(社)全国珠算学校連盟から表彰を受けました。

2009年度 全日本コース珠算選手権大会 (上位入賞者 敬称略)

総合競技

アンダー10	第1位	松原 潤(吹田市立西山田小学校)	880点
	第2位	黒木 優(熊本市立田迎小学校)	880点
	第3位	深町 理貴(大分大学福祉付属小学)	870点
アンダー12	第1位	松崎 翼(千葉市立蘇我中学校)	900点
	第2位	鈴木ひとみ(西宮市立樋ノ口小学校)	895点
	第3位	前島幸太郎(さいたま市立木崎小学)	890点
アンダー15	第1位	高倉佑一朗(流山市立南流山中学校)	900点
	第2位	玉那覇有亮(昭和薬科大学付属中学校)	895点
	第3位	今井 理佐(兵庫県立宝塚北高等学校)	890点

フラッシュ暗算競技

アンダー10	第1位	赤堀 愛果(聖徳学園大付属小学校)	3.0秒
アンダー12	第1位	関谷真生子(笠松町立笠松中学校)	2.8秒
アンダー15	第1位	高倉佑一朗(流山市立南流山中学校)	2.2秒

種目別競技

かけ算	第1位	高倉佑一朗(流山市立南流山中学校)	21.001秒
わり算	第1位	高倉佑一朗(流山市立南流山中学校)	13.739秒
みとり算	第1位	玉那覇有亮(昭和薬科大学付属中学校)	16.803秒
かけ暗算	第1位	関谷真生子(笠松町立笠松中学校)	10.259秒
わり暗算	第1位	玉那覇有亮(昭和薬科大学付属中学校)	6.492秒
みとり暗算	第1位	玉那覇有亮(昭和薬科大学付属中学校)	9.231秒

そろばん倶楽部 第36回 珠算教育研修会

期日：平成21年9月20日(日)午後1時開会

9月21日(祝月)午前11時解散

会場・宿泊：ホテル 池田 TEL0557-81-9161

熱海市当会岸町12-40

<http://www.hotelikeda.co.jp/>

研修会議：9/20 午後1時～6時 9/21 午前10時～11時

研修方法：参加者各自が各教室運営の資料を提出し、発表する。(5～10分程度)

懇親会：午後7時～9時

会費：19000円(宿泊・食費など全て含む)当日総務にお支払いください。

参加申込み：6月30日までに届くよう、研修会参加の出欠を郵送または、

FAX(0743-74-0857)

〒630-0242 奈良県生駒市新生駒台11-14 古場 弘子総務宛

TEL0743-74-0857

伝票算の活用 —— 伝票算の復活を願って ——

事務局長 大西 信二

日商の珠算検定種目から伝票算が消え去り、丸6年を経過してしまっただけでなく、その影響で、珠算教室での伝票算の練習を止めてしまっている教室がほとんどと聞く。この状態では、先人が考案した伝票算を知らないままで終わってしまう珠算生徒が大半となってしまう。しかし、全大阪オープン珠算選手権大会では、現在でも総合種目の中に伝票算があり、乗算・除算・見取算と同様に珠算の種目として競技が行なわれ、その伝票技術を競っている。当然、その大会に出場するために、伝票算を練習しなければなりません、私達珠算教育者はその計算技術を見つめ直さねばならないと考えます。

伝票算計算の練習を止めてしまったが為に、桁違いの加減算が即座にできなくなるなど、明らかに珠算教育から観ると、計算能力の低下と言わざるを得ない。読上算などでその欠点を補っている教室は良いとしても、現実に生徒の珠算能力別でなく一斉で練習している教室では読上算を行なえない状況と聞く。現に、6年前の珠算1級合格者と現在の合格者との能力は歴然として大きな差を生じていることは明らかである。

私の教室では 上級者(有段・1級)対象のクラスでは以前と変わらずに伝票算を練習しているが、本年度から全てのクラスで伝票算を一つの種目として練習をさせている。その伝票算の活用が生徒の珠算能力の向上はもとより、将来、実社会での帳票類の集計能力にもつながるものと期待している。

教室の備え付け教材として3級伝票・2級伝票・1級伝票の三種類の数十冊を活用している。週に2回、伝票算の練習時間として10分間程度を設定し、かけ算・わり算・みとり算と同様に練習をします。教室での進級試験・札替試験・毎月のベストテンには、伝票算の得点も入れて生徒の能力評価をしている。

さらに、半年に一度、「伝票競算会」という競算会を教室イベントの一つとして行ない、全生徒が「3級伝票」を使って参加し、伝票算に興味を持たせ、珠算能力を高めています。そのために、珠算中級者の生徒も伝票算ができるように、3級の問題を5頁毎、10頁毎に解答を作り、珠算5級程度の生徒から伝票算を取り入れている。どの生徒も左手で伝票をめくり、右手で計算する伝票計算は、生徒には評判の良い珠算種目となりつつある。

伝票算の効用としては、①位違いの加減算を瞬時に計算できる。②左手でめくりながら計算し前ページの数字を写像として頭に浮かべながら計算するので、暗算力の養成になる。③左ひじでそろばんを固定し、左手で問題をめくり、右手で珠をはじいて計算するので、左右の動作の連係により敏捷性と事務能力を高める。など・・・。

近年、珠算教育界はフラッシュ暗算などで暗算教育の推進に力点を置いたがため、肝心のそろばんでの速度を軽視されている傾向にある。そのため、暗算高段者で珠算段位が伸ばせない生徒が目立ってきている。ソロバン盤面での速度を上げる練習を疎かにしている結果で伝票算練習でそろばん面でのおきこみが増え、計算速度を上げるには適していると思う。

なお、当教室が行なっている「伝票競算会」の実施方法を一例として紹介します。

- ①参加資格：珠算5級以上の全生徒。生徒に伝票・答案用紙(頁毎に120題数)を配布。
②3級伝票問題・①5枚計算60題 ②10枚計算60題 計120題30分で競う。

基礎学力を幼稚園から

大阪府柏原市教育委員会

大阪府柏原市教育委員会では全七園の市立幼稚園に通う4、5歳児を対象に、小学校で学ぶ簡単な読み書きや数の概念を前倒して教える「プレスタディー」を導入ことになりました。

同市は文科省の全国学力調査で全国平均を2年続けて下回っており、幼児期から学ぶ意欲を高め、小学校へ移行させるねらいです。文科省によると、自治体でのプレスタディーの実践は少なく、近畿では初の本格的な取り組みになるという。プレスタディーは山口県教委が全国に先駆けて2004年度から、佐賀市教委が2005年度から実施している。東京都品川区教委も導入を検討中で、文科省幼児教育課の担当者は「今後、取り組みが広がっていくだろう」と話す。

柏原市教委は「かず」「ことば」「せいかつ」「からだ」「表現」の5分野について、4、5歳児を対象に指導すべき方針や目標を設定。5月中にカリキュラムを市立幼稚園に説明する。実際の指導は、幼稚園の先生があたる。

今春施行された国の新しい教育要領では、「幼稚園教育と小学校教育を円滑に接続するために、幼・小の連携の充実が必要」との留意事項が盛り込まれた。小学校に入学した児童が勉強について行けず、落ち着いて先生の話听不懂「小1プロブレス(問題)」に対応する対策です。

しかし文科省は黒板やノートを使い、一斉にひらがなや漢字を書かせたり、具体的な足し算や引き算をさせたりすることは、教育要領から逸脱するとの見解を示している。柏原市教委は遊びなどを通して数や言葉に関心を持てるよう指導する。全国学力調査で柏原市は小中学校とも教科別平均正答率の大半が2年連続で全国平均を下回るので、基礎学力の定着を図るには幼稚園時代から小学校の学習内容を意識した教育が必要と判断された。同市教委の前芳治教育部長は「全国学力調査で柏原の子どもたちが学ぶ意欲が低いとの結果が出た。英才教育を進めるつもりはないが、子どもたちの学習意欲を高めたい」と話している。市教委は市立の小中一貫校2校と幼稚園を連携させ、「幼・小・中」の一貫教育にも取り組む意向である。【朝日新聞5月9日より抜粋】

大阪府柏原教委のプレスタディーの目標 (抜粋)

4歳児	分野	領域	
	かず	かぞえる	1～10の数を数えられる。(木の実や木の葉などの身近な物を並べたり数えたりできる)、
		量	「深い、浅い」「重い、軽い」が分かる。
		時間	「昨日、今日、明日」の違いが分かる。
	ことば	話す聞く	自分や友達の思いを話したり聞いたりできる。
		書くこと	身近にある文字に関心を持ち、文字を使って遊ぼうとすることができ
読むこと		図鑑や本に自分の調べたいことを載っていることを知る。	

5歳児	分野	領域	
	かず	かぞえる	「多い、少ない」が分かり、使うことができる。列に並ぶ場合自分が何番目か分かる。
		量	「深い、浅い」「重い、軽い」が分かり、使える。
		時間	カレンダーを見て、「昨日、今日、明日、明後日」の流れが分かる。
	ことば	話す聞く	友達の思いを理解し、自分の言葉で思いを話すことができる。
		書くこと	ごっこ遊びなどで文字を使うことができる。
読むこと		興味を持った事柄を図鑑や本を使って調べることができる。	

全日本コース珠算選手権大会に思う

大阪山本速算会 肥田 敏志

今年で2回目となる全日本コース珠算選手権大会に参画させていただき、特に印象に残ったことは、選手全員が大会を楽しみながら参加していたということです。第1回目よりも出場選手が増えたことは、この大会がすごく人気があり、とても良い大会であったことを表していると思います。

最近、色んな大会に携わらせていただいて感じていたことですが、レベルの高い大会になればなるほど、トップクラスの選手の活躍の場しかない大会が多いように感じます。

総合競技が終われば、後は出番が無く、見学がほとんどになってしまう選手が多く、もう少し選手全員が楽しくそろばんをさわることができる機会を与える大会であれば良いのと思うことが度々です。しかし、本大会を観ますと、総合競技が終わった後の種目別競技では、全員が全ての種目にも参加できます。どの種目も、準々決勝・準決勝を順に行い、選ばれた10人が壇上で決勝をする大会であり、選手が楽しんで参加しているように思えました。また、準々決勝や準決勝が会場で一斉に行われることは、子供・生徒を応援にきた引率の親や先生方にとって、活躍している姿や頑張ってる姿、悔しがっている姿などの様子を観ることができ、大会終了後、子供・生徒に対しても、適切な指導に繋がるのではないかと思います。

大会によって、当然、珠算の技術を競うことは重要なことですが、大会に参加することによって、精神面を学ぶことやマナーを守るといった人間として必要なことを学ぶことも大切だと思います。この選手権大会は、進行委員の話をしっかり聞いていないと、次の行動が分からず、大会を運営する進行する先生の話をしっかり集中して聞くことが大切なことです。人の話をしっかりと聞き取ることの大切さも教えられています。また、選手としてのマナーが守れない選手には適切に注意し、注意を聞けない選手には退場がありうるといった、厳しい大会という感じのイメージもありました。公平さを保つために、「止め！」の言葉で答えを書き込んでいる選手にはその競技種目に限り、失格とされています。すごく、厳しい様に思えますが、珠算の技術を教えるだけではなく、選手としてのルールを守り、人間として必要な事柄も教えていることだと思います。この大会に出場することによって、技術面だけではなく、精神面やマナーを守るといった人間として必要なものを得ることができるように思います。このように、大会運営者の先生方が大会を創りあげているということが「すごい」と感じます。

出場する選手にとっては、自分より年下の子でも上手な子がいたり、同じ年齢であっても、実力が全然違うという色んな選手との交流の場です。現在、全日本コース大会のような全国大会は数少なく、全国から選手が集まることが少ない中で、自分と同年代の子や少ししか年齢が離れていない選手と競うことは励みになったり、ライバルができたり、交流する機会となります。その中で、選手たちが目標をもったり、一生懸命に競技したことによって満足感・挫折感などを経験することができ、その選手の成長にも繋がると思います。選手たちは本大会に出場することにより、個々に色んな目標を持つと思いますし、ぜひ、目標を達成出来るように努力して、金本先生が言われたように、選手たちはこの大会をスタートとして頑張っていたいただきたいと思います。

筆紙墨硯談義

日本書芸院参事 瀬戸 白鳳

我々の世界では、筆、紙、墨、硯の四品纏めて「文具四(至)宝」と呼んでいる。書作する上で絶対に必要なもので、なくてはならないもの。とは言うものの、最近は、硯も墨(固形墨)も姿を消し、もっぱら硯の替わりに「墨池」に墨を溜める、それもプラスチック製。固形の墨も「墨液」液状の墨となった。

今の世と同様に我々の世界でも、一つ一つ文化が消えていく。

紙、専門的には画箋紙と呼ぶが、ひと昔前なら、サイズは1種類だけ。「全紙」と呼んで、70×135の寸法、これを切ったり接いだりして、思う寸法の画箋紙を自分で用意したものだ。最近では展覧会に出品する規格サイズなら瞬時入手できる。だから、最近の若い書道家は一般に画箋紙の接ぎ方も知らなければ、硯や墨についての蘊蓄も浅いと言われても致し方ない。

ぼやきは程ほどにして、書なんてものは、筆と紙と墨と硯の働きが、絶妙に調和した時に、人は感動をおぼえる。今流で言うなら、文具四宝によるコラボレーションだろう。よく筆と紙とが合わないとか、紙と墨とが合わないとか言う。例えば、よく墨を吸う紙(奉書紙等)などに書くときは、通常より少し大きい目の筆を使うとよい。小さくなると墨が多く吸われて、すぐに、かすれてしまう。結果的に紙と墨とも合わなくなってしまう。こんな時は、大きい目の筆に墨汁を十分に含ませ、手早く書くとうまくいく。ここに掲げたのは西国第九番札所、奈良興福寺南円堂の納経印である。

一般に納経帳の紙質は奉書紙のように、墨をよく吸う。これは半紙などに五文字ほど書くときに使う中筆で書いている。そしてかなりの手馴れた速さで書いたものである。両側の「奉拝」「興福寺」は同じ筆の穂先を使って書いたものだ。時には両側の小さい文字だけ筆ペンで書いているのを見かけることがある。

南円堂は確か、硯で磨墨していたと思う。墨液よりも磨った墨のほうが筆のすべりが良いし、墨の発色も良い、良い硯で磨墨すれば墨の粒子も小さく、水に万遍に溶け込むからだ。良質の硯の肌は若い女性の肌のようにもっちりしているそうである。